

## 令和元年度第1回相楽東部広域連合総合教育会議 会議録

1日 時 令和元年12月16日（月）午後1時00分～2時40分

2場 所 和東町体験交流センター 会議室

3出席者 広域連合長 西村 典夫  
副広域連合長 堀 忠雄  
副広域連合長 平沼 和彦  
教育長 西本 吉生  
教育委員（教育長職務代理） 石橋 常男  
教育委員 北口 弘子  
教育委員 村田 年宏  
教育委員 植田 宏和

4傍聴人 なし

### 5議 事

#### (1) 開会

司 会 安原事務局長

#### (2) 広域連合長あいさつ

西村 広域連合長

相楽東部広域連合総合教育会議設置要綱第4条に基づき、広域連合長が会議の議長として以下の議事について進行を行った。

#### (3) 地域活性化に向けた展望、連合として目指す人物像について

「地域の目指したい姿」と「目指したい人間像」について、意見交換を行った。

#### <主な質疑・意見交換>

##### ○副連合長

この地域には、教育にとって貴重な場所、フィールドがある。自然や体験等をキーワードとして、相楽東部の教育をもっとアピールしていきたい。

##### ○教育長

体験活動は、知識だけでは得られない貴重なもの。体験の中でも自然体験。ただ、今は、のびのびと自由に走り回れる場所も少なくなってきた。

##### ○副連合

人間が本来もっている自然の力をそのまま伸ばした上で、学習能力を身につけていく。そうした自然が、教育が、ここにはある。教育の本質を踏まえると、子どもの教育のためには、相楽東部。基礎教育は相楽東部で身に着けていく、こうしたフィールドがここにはある、そうしたことを積極的に発信していくことが必要。

○副連合長

子どもの教育には、家庭教育の充実が欠かせない。これまでは家庭でしつけしていたが、今は、会社に入ってから基礎から教えているような状況。

○教育長

学校教育、社会教育、家庭教育、この3者が、それぞれの分野で、それぞれの責任を果たしつつ、有機的につながっていかないといけない。

○副連合長

子どもにとっては、楽をするだけでなく、歩くこと、汗をかくことも必要。地域全体で、思い切った取組も必要。

○教育委員

教育の現場では、先生の熱意、信頼関係、人間関係が特に重要。

○副連合長

自然の中には、真理、原則がある。ここから学ばないといけない。

○教育長

学校のあり方も変わってきたが、本質的なところ、体験して覚える、身につけるといふことは変わらない。連合の教育は、自然を活かす、自然から学ぶ教育。それを地域全体で支えていくということ。

#### (4) 地域への愛着心を醸成する取組について

〔 地域を愛する心を育む教育の取組について、説明を行い、意見交換を行った。 〕

#### <主な質疑・意見交換>

○教育委員

連合教育で実施している、ふるさと教育、落語を学び披露していく取組は、非常に特徴的な取組。子どもたち全員が主役になって、落語をすることが伝統となっていく。落語を通じて自信をつけていくとともに、自分の考えを外に向けて表現・発信していく力につながっているのではないかと。

○教育委員

子どもたちは、いずれ社会に出ていく時に対人関係など様々な問題に直面する。そういった意味で、連合教育の中で切磋琢磨していくことが一番重要。連合では、小小連携、小中連携、中中連携等の取組によって集団としての機能がより発揮されている。人数が少なくても、人の良さ、自分にはない魅力を肌で感じる、発言の内容で知っていく。それを補うための取組が実施されている。また、子どもたちが地域の人にお茶をふるまう、地域の中で子どもたちの声が聞こえる、こういった地域と交流を図る取組、教育がなされている。地域の人も、それを楽しみにされている。

また、大きくなるにつれて、「この地域は田舎やな、交通不便やな」と感じる子どももいるように聞くが、この地域の自然で体験したこと、星がきれいなこと、人情に厚いこと、地域全体でつながって支えられたこと等は忘れない。外からみても地域の良さに気づいて、目覚めていく、こうした面からも、自然との教育、連合教育を推進していくことが重要。

さらに、連合の先生方は、子どもたちをほったらかしにしていない。困っている子どもがいても、一人ひとりの子どもの顔を見て、声を聞いて、寄り添って、卒業しても見守る、とことん関わっていく、そういった教育がなされている。これは、小規模校ならでは、連合ならではである。その中で信頼関係が培われ、卒業しても関係が続いて、つながりがどんどん

広がっていく。総合教育会議設置要綱には、会議の協議事項として第2条（2）相楽東部広域連合の教育を行うための諸条件の整備とある。こういった取組、連合教育の推進のために、不足している部分、必要な条件整備についてバックアップしていかないといけない。